

# みくまの支援学校学校第4回学校運営協議会

平成30年度 第4回【平成31年2月19日（火）】

出席者：委員6名、傍聴人5名

## 議題等

- 1 授業参観（自立活動）
- 2 学校の現状と取組
- 3 平成30年度学校関係者評価の実施（説明及び協議）
- 4 まとめ



## 議論した主な内容

- 2 第3回協議会以降、学校の取組について次のとおり説明した。

### 【学校】

- ・地方新聞（熊野 紀南）にて本校学校行事等掲載（2月までで34回掲載）

### 【学部】

- ・地域伝統文化の伝承（小学部 クリスマスコンサート 木工教室）
- ・老人福祉施設みさきを招待（高等部 太鼓披露）
- ・Aコープ店頭にて作業製品販売（高等部）

### 【分掌】

- ・福祉事業所職員対象研修2回実施（美熊野福祉会職員）

### 【育友会】

- ・保護者間のつながり  
（第2回給食試食会）



- 3 平成30年度学校評価について説明及び協議し、学校関係者評価を行った。

気づきと振り返りが学校運営に関わる柱である。

①学校の取組等をよりオープン化し、地域との連携を高める。

②広報の仕方を工夫して、幅広く知ってもらう。

③情報提供、共有する中で、授業、生活支援、防災など、関係者の間でつながりを深める。

（意見）・自立活動の教員の授業は、子供の反応を見て、子供に声かけをし、体の動きを確認し、自己達成感を高める様子が見てわかる。みくまの財産である。子供への接し方や配慮の仕方など、研修を通して、関わり方を他の教員も学ぶべきものが多い。

・関係機関との連携やシステムづくりの強化を継続してほしい。

・小、中、高等部、卒業しての支援などライフステージに合わせた生活支援

・保護者の体験を教員に話す場の設定

・学校の生命線は授業である。授業は今の1分しかない。その重さを教員は感じてほしいし、命を精一杯生きている子供達に何を学んだかわからない、これからどう活用できるかわからない授業ではいけない。

## 具体的な取組・活動

### 活動予定

学校 カリキュラム研修における授業力向上 教態の気づきとふりかえり  
学校と福祉、労働、医療、保護者との連携強化